淀姫通信
よどひめつうしん

平成二十四年九月十一日
皇紀２６７２年
（西暦２０１２年）
第39号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

朝晩すっかり涼しくなってきました

そろそろ秋の気配が…

さて、立秋も過ぎ、朝晩はかなり涼しくなってきました。日中の気温も、少しずつ３０℃を割り込むことが多くなってきてましたし、夜は夜とて虫の鳴き声が盛んな今日この頃です。

季節は、ゆるゆると秋に移りつつあります。秋に入ると、そろそろお祭りシーズンがやってきます。そこかしこのお社で、例大祭や、秋の実りを感謝する秋祭りなどが斎行されます。舞台裏では、ぼちぼちとその準備が始まります。

夏ばての後遺症が解消したら、頑張って体力を取り戻し、秋のお祭りシーズンに備えて頑張るのです。

季節の言葉あれこれ

今回は、九月の後半にかけての季節の言葉をご紹介いたします。

【敬老の日】

日本の国民の祝日。九月の第三月曜日。

今年は九月十七日がこの日にあたります。

「国民の祝日に関する法律（祝日法）」によると、「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」ことを趣旨として制定されています。

この「敬老の日」は、昭和二十二年に兵庫県多可郡のとある村で、当時の村長と村議会議員が提唱した「としよりの日」が始まりだそうです。「老人を大切にし、年寄りの知恵を借りて村作りをしよう」と、九月十五日に敬老会を催していて、それが兵庫県全体、そして日本全体に広がって祝日として定められたとのこと。

「改正祝日法」施行で、日にちがずれてしまうことになってしまいました。

【秋分の日】

日本の国民の祝日。九月二十三日前後。

今年は九月二十一日がこの日にあたります。

「昼と夜の長さが同じになる」としばしばいわれますが、実際は昼の方が少々長いです。

「国民の祝日に関する法律」によると、「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」ことを趣旨として制定されています。

これは、宮中祭祀の一つ「秋季皇霊祭」が秋分に合わせて斎行されていたことによるものです。（もちろん春分には「春期皇霊祭」があります）

【彼岸】 仏教用語

煩悩を脱した悟りの境地のこと。

一般的には、春分・秋分を中日に前後三日間を合わせた七日間を「彼岸」と呼びます。なかでも中日には「彼岸会（ひがんえ）」としてお寺などでは宗派を問わず先祖供養を執り行い、多くの人がお寺参りお墓参りに行きます。

ちなみに、これは日本だけの風習です。

【十五夜】【中秋の名月】

旧暦八月十五日の満月。

今年は九月三十日にあたります。

古代中国から奈良・平安の時代に日本に「月見」の祭事が伝わり、貴族たちを中心に「月見の宴」が華やかに催されるようになりました。

庶民の間では、秋の収穫物を満月に供えて五穀豊穣を祝い、実りに感謝する「十五夜祭り」として広まりました。

「十五夜」の満月は角度的にも最も見やすい位置に登ります。また、月が最も美しく見える季節であることから、全国各地で「観月会」などの催しが開かれます。

今年は晴れるかな？